

ニュースレター第20号をお届けいたします。今号は樋野先生のお言葉と、スタッフの戸田が担当します。

あらゆる人々が立場を超えて集う『交流の場』～ 温かく迎え入れる ～

樋野興夫（順天堂大学名誉教授、新渡戸稲造記念センター長、恵泉女学園理事長）



この度、『OCC カフェ 2024年8月号』の原稿を『格調高いオオカミ🐺（戸田裕子）』様から依頼された。『お茶の水メディカル・カフェ in OCC』は、東日本大震災の2011年に創設準備がなされ、2012年に当時 OCC 副理事長であった今は亡き榊原寛先生（79歳で2020年12月24日ご逝去された）が始められた。私は、『順天堂大学医学部 病理・腫瘍学教授』時代の2012年5月26日に第1回『お茶の水メディカル・カフェ』に出席した。

【『先見性・力量・胆力』&『心温まるおもてなし・賢明な寛容性』& あらゆる人々が立場を超えて集う『交流の場』&『最も剛毅なる者は最も柔和なる者であり、愛ある者は勇敢なる者である』&『他人の苦痛に対する思いやり』】の学びの場でもある。これが、『お茶の水メディカル・カフェの原点』であろう！

『お茶の水メディカル・カフェの10ヶ条』

- 1) 『暇げな風貌』の中に、『偉大なるお節介』を有する『胆力と気概』の習得
- 2) 空の上から自分を見る視点を持った『当事者研究』の推進
- 3) 言葉の大切さ、重み、対話のあり方を学ぶ人材の育成
- 4) 病気になったとき、人はどのように感じ、何を考えますか？
- 5) 家族は、どのように患者さんを 支えることができますか？
- 6) 周りの人は、どのように患者さんを 支えることができますか？
- 7) 人の支えは、患者さんに、どのような効果をもたらしますか？
- 8) 愛がなければ全ては無意味
- 9) 愛に溢れた雰囲気
- 10) 静かな口調

冷たい身内より、温かい他人

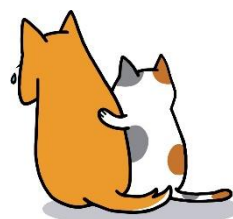
この言葉は樋野興夫先生がおっしゃった言葉です。
私はこの言葉を聞いた時に『目からウロコが落ちる』ならぬ
『目からサカナごと落ちた』あの日の感覚を今でも鮮明に覚えています。



人は状況や環境によって立場が様々に変わる

わたしはこれを良いことだと思っています。
⇒色々な経験や体験ができるといった意味や
自分の物の見方を問われる機会がまさにこれだと思うので…

治療する側だったり、治療される側だったり
介護する側だったり、介護される側だったり



話をする側だったり、話をされる側だったり
話を聴く側だったり、話を聴かされる側だったり

立場が変わることは生活している上で、生きていく上で、往々にしてあること
しかし、『対峙する人により対応はこうまでにも変わるものなのか?』と
自分自身を疑いたくなることが…時としてあります。

身内と他人

感じ取っていることが当たり前だと思い『わかってきているのが当然の身内』
わからないことを前提に話をしないと『わかってもらえないと思う他人』

自分の中の身内に対する甘えがそうしているのだと気づきはするものの
「なんでわかってくれないのさ!」と、勝手にプリプリしちゃうのが…わたしです(泣)

きっと…身内に優しくしてくれる他人がたくさんいるはずなので
わたしは『他人に精一杯、優しくしよう!』と思えたこの一言
⇒かと言って、身内に冷たくはしていませんよ!



わたしはこの『冷たい身内より、温かい他人』を
樋野先生が新渡戸稲造全集などから得た赤線の言葉を流暢に語るように
わたしのコトバの如く息をするように流暢に語っていこうと思います(笑)